

## 最近の外来状況

春ですが、寒暖差が激しいため、鼻かぜが多く、その他にめまい、頭痛、ふらつきなどが女性を中心に見られます。花粉症はスギがピークを終え、ヒノキが飛散しています。そこに黄砂が乗っかり、皮膚炎、咳、咽頭痛を引き起こしています。胃腸かぜは、現在ロタウイルスが多く、嘔吐、下痢が続き、消耗している方が多く見られます。家族内感染で大人も子どもも脱水を起こして、一緒に点滴を受けているケースもあります。また、新学期が始まり、宿泊訓練、修学旅行、合宿を前にして、急に「行きたくない」と訴える場合があります。大半が夜尿症です。今まで一度も相談したことがなく、小5、小6になって初めて相談することが結構多いです。4月から6月までに天候不順が続くことが多いため、女性は原因不明の体調不良を訴えることがあります。血の巡り、水分バランスが崩れるため、内科、産婦人科で数字には現れない体調不良が起こります。女性特有な冷え、月経関連のトラブルはなかなか治りません。これに関しては、その人に合う漢方薬を駆使して対応しています。西洋薬と漢方薬の併用も普通にやっています。



## 暑くなってきたので

- ⑬ 清暑益気湯の出番です。
- ⑭ 補中益気湯の夏バージョンです。暑バテ、暑さによる食欲不振、全身倦怠感、下痢に使えます。もうすでに、週末の野球の練習の行き帰りに飲んでいるお子さんもおられます。
- ⑰ 五苓散を併用すると、頭が痛くならず、気持ち悪くもならないです。熱中症対策としても重宝しています。顔面のみ赤くほてる、ノドが渇く人は、⑳ 白虎加人参湯が良いです。



## ※左記以外で最近見つかった病気

- ① **先天性肥厚性幽門狭窄症**(せんてんせいひこうせいゆうもんきょうさくしょう) 生まれつき胃の幽門部の筋肉が肥厚しているため、経口で水分を摂っても嘔水状に吐いてしまいます。そのため体重が増えず、手足が細く元気がありません。やはり「嘔吐が頻回で、時々嘔水状に吐く」という症状が見られました。
- ② **带状疱疹**(たいじょうほうしん) ハードワークの男性です。右後頭部痛、右胸痛、右肘部の疼痛を主訴に来院されました。心臓、肺に問題なし。受診翌日、右胸部から右上腹にかけて皮疹が出現しました。皮疹から带状疱疹と診断され、内服薬を中心に治療となりました。昔かかった水痘ウイルス(水ぼうそう)が、無理がかかったため、再活性化して带状疱疹を出現したのです。神経痛が残ると厄介です。



- ③ **神経線維腫症I型**(NF1)(Von Recklinghausen病) 出生時から少しずつ色素斑が見られていました。1歳を過ぎてから、全身にカフェオレ色をした色素斑が急速に増えてきました。産科での1ヶ月健診時では、はっきりと病名を告げられませんでした。当院受診時は、全身状態は良好でした。常染色体顕性遺伝(優位遺伝)疾患ですが、50-70%は抑発例です。今後、全身に多種の応変(良性腫瘍など)が出現するので、総合病院でのフォローが必要となります。

## お知らせ

岐阜市の  
漢方外来

5月 10日(土),  
24日(土)

時間:14:00-17:30

場所:中島小児科(岐阜市健屋東町2-1)

※すべて「院外処方」です。

休診のお知らせ

5月 7日(水), 17日(土), 21日(水)